

科目	音楽 I	単位	2	対象	1年 普通科
目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。				
学習内容	(1) 歌唱：曲種に合った発声の工夫。視唱力を高める。歌詞、及び曲想の把握と工夫。 (2) 器楽：三線やギターなどの基本的な演奏姿勢や奏法を身につける。 奏法の工夫。視奏力を高める。曲の構成及び曲想の把握と工夫。 (3) 鑑賞：我が国及び諸外国の音楽の種類と特徴を知る。				
学習にむけて	中学校では習わなかった理論（楽典）を学習します。楽典の授業の時は、特に集中して授業に臨みましょう。				
評価の方法	次の（1）～（5）を総合的に判断して評価します。 (1) 演奏法：個人の演奏に限らず、重唱（奏）やグループによる演奏を評価する。 (2) 観察法：興味・関心・態度・意欲の評価。 意欲的、主体的に授業に取り組んでいるか。 (3) テスト法：ペーパーテストを行います。 (4) 課題やレポート提出。 (5) 遅刻、欠課等勤怠状況、日々の授業態度。				
教科書・使用する教材等	(1) 教科書（教育芸術社「MOUSA 1」） (2) ハンドベル (3) キーボード (4) 三線 (5) ギター				
進路との関わり	音楽系大学の受験科目の基礎が学べます。				

1. 教科名 芸術 科目名：美術I
2. 履修学年 1年（芸術選択）
3. 単位数 2単位

#### 4. 目標

芸術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

1. 多様な表現方法への理解を深め、制作意図に応じて選択・実践できる。
2. 表現の意図や工夫、制作背景について学び、自発的に発想、計画、制作を行えるようにする。
3. 主体的に取り組み、永く創作を愛し、様々な美術文化に親しみ、豊かな社会を創造できる。

#### 5. 授業内容及び形態

1. 座学で資料を交えて幅広く美術史、芸術作品解説等を行い、実技でそれらを生かし、定期考査でこれらを問い、振り返りとする。
2. 基礎を重視した実技課題・考査を実施する。
3. 夏休み課題として複数の公募からテーマを選出し、各人一点を提出する。優秀作品は応募し進学等に有意な実績と成す。
4. 芸術合同発表会（12月）を開催し全学年の課題を展示する。合唱コンクール（音楽）、は作品展（書道・美術）とし、保護者も交えて日頃の創作の成果を確認してもらう機会とする。

#### 6. 評価方法

(1) 「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三観点評価とする。比率は1：1：1とする。

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ① 十分満足できる   | A 80～100点 |
| ② おおむね満足できる | B 35～79点  |
| ③ 努力を要する    | C 0～34点   |

#### (2) 評価の観点

- ① 知識・技能：対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
- ② 思考・判断・表現：造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
- ③ 主体的に学習に取り組む態度：主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

#### 7. 教科担当より

IT技術がこれまでも増してめまぐるしい速度で進歩する一方、自己を表現する術が本来多様化すべき時代であるにも関わらず多数が目する表現、技術に画一化される側面も散見されます。

次世代を担う皆さんは自分の持つ可能性を自覚し、人種、文化、時代を超えた表現方法を学び、様々な創作活動で生じた出来事に関心を持つ事が何よりも重要な時代になりました。多様性、という言葉に込められた重みや楽しさ、努力や歴史に興味を持って美術を楽しんでくれる事を願います。

## 令和5年度 芸術科「書道Ⅰ」(シラバス)

- 1、目 標：書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
  - (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
  - (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
- 2、成績評価：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の三観点を、①課題作品②ワークシート(振り返り)④授業内テスト⑤学習態度等の平常点(取り組み状況、関心、意欲、道具の扱い方の評価)等をもとに、1：1：1の割合で総合的に評価する。
- 【判断基準】
- |                           |           |
|---------------------------|-----------|
| A・・・「十分満足できる」状況と判断されるもの   | 80以上100以下 |
| B・・・「おおむね満足できる」状況と判断されるもの | 35以上80未満  |
| C・・・「努力を要する」状況と判断されるもの    | 0以上35未満   |
- 3、使用教科書・副教材：東京書籍 書Ⅰ
- 4、授業の形態：芸術3科目(音楽・美術・書道)の中から1科目を選択し、書道を選択した生徒のみの単独クラスで授業を行う。実技を基本とする。
- 5、学習方法：授業は教科書中心に進め、年に2回学習した内容より自ら課題を選択し、作品制作を行い各種公募展へ出品する。また、芸術発表会に向けて作品制作を行う。

### 6、年間学習指導計画

学期	月	単 元	教 材 内 容	指導の重点目標	評価の観点
一 学 期	4	書写から書道へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の目次をたどりながら書体を紹介</li> <li>・用具・用材、姿勢</li> <li>・基本的な筆使いの確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書の分野を理解させる(楷書・行書・草書・隸書・篆書・仮名・漢字仮名交じりの書)</li> <li>・書道の執筆法を理解させ、正しい姿勢と運筆法を身につけさせる。</li> <li>・書写との違いを理解させ、芸術書道の意義・内容を理解させる。</li> </ul>	知識・技能 主体的に 取り組む 態度
	5				
	6	楷書の学習 唐の四大家に学ぶ 楷書の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九成宮醴泉銘</li> <li>・孔子廟堂碑</li> <li>・雁塔聖教序</li> <li>・自書告身</li> <li>・牛渚造像記</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両古典の比較を通してそれぞれの徴と書法を理解し、その表現方法を習得する。</li> <li>・半切2/1サイズに拡大臨書させる。</li> </ul>	知識・技能 思考・判 断・表現 主体的に 取り組む 態度
7	半切作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに臨書した古典の中から選択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半切への文字の配列、字の大小や墨量の変化の表現効果について理解させる。</li> </ul>	知識・技能 思考・判 断・表現 主体的に 取り組む 態度	

二 学 期	9	夏休みの課題・タイムス展への作品出品		知識・技能 思考・判断・表現 主体的に取り組む 態度	
	10	行書の学習 蘭亭序の鑑賞と臨書	<ul style="list-style-type: none"> <li>行書の特徴</li> <li>蘭亭序「永和」</li> <li>蘭亭序の全臨</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>行書の成立、特徴を理解させる。</li> <li>王羲之の書道史上の重要性を理解させ、蘭亭序の鑑賞と臨書を通して行書の基本的な表現技法を習得させる。</li> </ul>
	11				
	12	芸術合同発表会への 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会での展示作品として仕上げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小筆で半切に全臨することで、文章の流れによる文字の形の変化、蘭亭序の趣を味わわせる。</li> </ul>	思考・判断・表現 主体的に取り組む 態度
		半切作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに臨書した古典の中から選択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>半切への文字の配列、字の大小や墨量の変化の表現効果について理解させる。</li> </ul>	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に取り組む 態度
三 学 期	1	新報展（書き初め展）への作品出品		知識・技能 思考・判断・表現 主体的に取り組む 態度	
		篆書の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>篆書の特徴</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>篆書の歴史的な位置付けを理解させ、基本的な篆書の学習により特徴を理解させ、姓名を篆書で書けるようにする。</li> </ul>
	2	篆刻の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>印材(姓名印)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>篆刻が芸術作品としての対象となる書表現のひとつであることを理解させる。</li> <li>姓名印の制作を通して篆刻の手順と技法を習得させる。</li> <li>平仮名と変体仮名の文字の変化を、いろは歌の模写を通して確認させる。</li> </ul>
	3	仮名の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろは歌</li> <li>変体仮名・連綿</li> <li>蓬萊切</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>蓬萊切の鑑賞と臨書を通して仮名の基本的な用筆・運筆を習得させ、仮名の書の表現の多様性を理解させる。</li> </ul>	知識・技能

科目	音楽Ⅱ	単位	2	対象	2年 普通科
目標	音楽の諸活動をして、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。				
学習内容	(1) 歌唱：曲種に応じた豊かな発声。視唱力の充実。 歌詞、及び曲想の理解と個性豊かな表現。 (2) 器楽：三線やギターなどの基本的な演奏姿勢や奏法を身につける。 奏法の習熟。視奏力の充実。曲の構成及び曲想の把握と個性豊かな表現。 (3) 鑑賞：文化的背景に基づく、我が国及び諸外国の音楽の特徴。				
学習にむけて	1年生で習った理論（楽典）は、2年生でも継続して行います。特に、へ音記号の読みが出来ない生徒や音程を理解出来なかった生徒は、復習をする必要があります。				
評価の方法	次の（1）～（5）を総合的に判断して評価します。 (1) 演奏法：個人の演奏に限らず、重唱（奏）やグループによる演奏を評価する。 (2) 観察法：興味・関心・態度・意欲の評価。 意欲的、主体的に授業に取り組んでいるか。 (3) テスト法：ペーパーテストを行います。 (4) 課題やレポート提出。 (5) 遅刻、欠課等勤怠状況、日々の授業態度。				
教科書・使用する教材等	(1) 教科書（教育芸術社「MOUSA 2」） (2) ハンドベル (3) キーボード (4) 三線 (5) ギター				
進路との関わり	音楽系大学の受験科目の基礎修得に役立ちます。				

1. 教科名 芸術 科目名：美術Ⅱ
2. 履修学年 2年（芸術選択）
3. 単位数 2単位

#### 4. 目標

芸術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

1. 多様な表現方法への理解を深め、制作意図に応じて選択・実践できる。
2. 表現の意図や工夫、制作背景について学び、自発的に発想、計画、制作を行えるようにする。
3. 主体的に取り組み、永く創作を愛し、様々な美術文化に親しみ、豊かな社会を創造できる。

#### 5. 授業内容及び形態

1. 座学で資料を交えて幅広く美術史、芸術作品解説等を行い、実技でそれらを生かし、定期考査でこれらを問い、振り返りとする。
2. 基礎を重視した実技課題・考査を実施する。
3. 夏休み課題として複数の公募からテーマを選出し、各人一点を提出する。優秀作品は応募し進学等に有意な実績と成す。
4. 芸術合同発表会（12月）を開催し全学年の課題を展示する。合唱コンクール（音楽）、は作品展（書道・美術）とし、保護者も交えて日頃の創作の成果を確認してもらう機会とする。

#### 6. 評価方法

(1) 「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三観点評価とする。比率は1：1：1とする。

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ① 十分満足できる   | A 80～100点 |
| ② おおむね満足できる | B 35～79点  |
| ③ 努力を要する    | C 0～34点   |

#### (2) 評価の観点

- ① 知識・技能：対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
- ② 思考・判断・表現：造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
- ③ 主体的に学習に取り組む態度：主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

#### 7. 担当より

IT技術がこれまでも増してめまぐるしい速度で進歩する一方、自己を表現する術が本来多様化すべき時代であるにも関わらず多数が目指す表現、技術に画一化される側面も散見されます。

次世代を担う皆さんは自分の持つ可能性を自覚し、人種、文化、時代を超えた表現方法を学び、様々な創作活動で生じた出来事に関心を持つ事が何よりも重要な時代になりました。多様性、という言葉に込められた重みや楽しさ、努力や歴史に興味を持って美術を楽しんでくれる事を願います。

## 令和5年度 芸術科「書道Ⅱ」(シラバス)

- 1、目 標 : 書道に関する創造的な諸活動をとおして、感性を磨き、書の文化や伝統について理論的な側面を含めて理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばしていく。
- 2、成績評価 : ①課題作品(70%) ②学習態度等の平常点(30%)・学習時の生徒の良い点や、取り組み状況を重視し評価する。また、聞く態度、質問や関心、意欲、道具の扱い方の評価 \*①, ②, を考慮し総合的に評価する。
- 3、使用教科書・副教材 : 東京書籍 書Ⅱ
- 4、授業の形態 : 芸術3科目(音楽・美術・書道)の中から1年次に書道を選択した生徒のみの授業形態を行う。クラスにより2~3クラスの合同授業を行う。実技を基本とする。
- 5、学習方法 : 授業は教科書中心に進め、年に2回学習した内容より自ら課題を選択し、作品制作を行い各種公募展へ出品する。また、芸術発表会に向けて作品制作を行う。

### 6、年間学習指導計画

学期	月	単 元	教 材 内 容	指導の重点目標	評価の観点
一 学 期	4	篆書の学習 さまざまな篆書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石鼓文</li> <li>・甲骨文</li> <li>・大孟鼎</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石鼓文、召尊、甲骨文それぞれの作品の鑑賞・臨書を通して、篆書の基本的な用筆・運筆、結構上の特徴を確認し習得させる。</li> </ul>	関心・意欲 態度・技能 鑑賞
	5	篆刻の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印材(姓名印)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・篆刻が芸術作品としての対象となる書表現のひとつであることを理解させる。</li> <li>・姓名印の制作を通して篆刻の手順と技法を習得させる。</li> </ul>	関心・意欲 態度・技能 構想
	6	隸書の学習 さまざまな隸書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・礼器碑</li> <li>・開通褒斜道刻石</li> <li>・木簡(居延漢簡)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隸書の歴史的な位置づけ、用筆・運筆、結構上の特徴を理解させ習得させる。</li> </ul>	関心・意欲 態度・技能 鑑賞
	7	仮名の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高野切第一種</li> <li>・三色紙</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の鑑賞・臨書を通して、用筆・運筆の変化に気づかせる。</li> <li>・高野切第一種の鑑賞と臨書を通して、仮名の基本的な用筆・運筆・結構を習得させる。</li> <li>・三色紙を鑑賞して散らし書きの技法を習得させる</li> </ul>	
	7	半切作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに臨書した古典の中から選択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半切への文字の配列、字の大小や墨量の変化の表現効果について理解させる。</li> </ul>	技能・構想

二 学 期	夏休みの課題・タイムス展へ作品出品			<p>関心・意欲 態度・技能 構想・鑑賞</p> <p>関心・意欲 態度・技能 構想</p> <p>技能・構想</p>	
	9	漢字仮名交じりの書 ①意図に応じた表現を学ぶ ②さまざまな表現法を学ぶ ③自ら題材を選び創作する			<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉と表現の関わり方、表現の意図や工夫の方を味わう。</li> <li>・墨色・文字の大小・文字の配置等さまざまな表現とその効果について理解させる。</li> <li>・さまざま用具・用材と、表現との関わりについて理解し、目的に応じた効果的な表現ができる。</li> </ul>
	10				
	11	パネル作品制作 (芸術発表に向けて)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裏打ち</li> <li>・色台紙貼り</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・裏打ちの手順と技法を理解させ、作品を完成させる。</li> </ul>
	12	半切作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに臨書した古典の中から選択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半切への文字の配列、字の大小や墨量の変化の表現効果について理解させる。</li> </ul>	
三 学 期	新報展（書き初め展）への作品出品			<p>関心・意欲 態度・技能 構想</p> <p>関心・意欲 態度・技能 鑑賞</p>	
	1	刻字の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印材・印刀</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を彫り刻むということの歴史、紙とは違った保存性と立体性による独特の視覚効果、文字の伝達性をもつ役割を理解させる。</li> </ul>
	2				
	3	草書の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書譜</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草書が成立するまでの書体の変遷を確認し、用筆・運筆、結構上の特徴を理解させ習得させる。</li> </ul>	



科目	音楽Ⅲ	単位	2	対象	3年 普通科 文系A選択
目標	音楽の諸活動をして、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 音楽系大学等の受験に対応できる内容（楽典・ソルフェージュ）を学習する。</li> <li>(2) 教科書の内容については、授業進度に応じ、適宜取り組んでいく。</li> </ul>				
学習にむけて	受験に向けた取り組みになるため、楽典やソルフェージュは難易度が高くなります。				
評価の方法	<p>次の(1)～(5)を総合的に判断して評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 観察法：興味・関心・態度・意欲の評価。 意欲的、主体的に授業に取り組んでいるか。</li> <li>(2) テスト法：ペーパーテストを行います。</li> <li>(3) 演奏法：個人の演奏に限らず、重唱（奏）やグループによる演奏を評価する。</li> <li>(4) 課題やレポート提出。</li> <li>(5) 遅刻、欠課等勤怠状況、日々の授業態度。</li> </ul>				
教科書・教材等 使用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教科書（教育出版「音楽Ⅲ」）</li> <li>(2) 参考書（教育芸術社「改訂 音楽通論」）</li> <li>(3) 必要に応じた練習曲、演奏曲</li> </ul>				
進路との関わり	音楽系大学の受験対策が主な内容になります。				

1. 教科名 芸術 科目名：美術Ⅲ
2. 履修学年 3年（文系A選択）
3. 単位数 2単位

#### 4. 目標

芸術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

1. 多様な表現方法への理解を深め、制作意図に応じて選択・実践できる。
2. 表現の意図や工夫、制作背景について学び、自発的に発想、計画、制作を行えるようにする。
3. 主体的に取り組み、永く創作を愛し、様々な美術文化に親しみ、豊かな社会を創造できる。

#### 5. 授業内容及び形態

1. 主に芸術・創作系の進路を目指す。可能な限り少人数とし、個々に応じた専門知識、技術を学べる課題設定と指導を行う。
2. 芸術合同発表会は他学年に準ずる。
3. 基準を満たす課題は公募等へ出品し進学を見据えた実績の蓄積を目標とする。

#### 6. 評価方法

- (1) 実技評価 70%
- (2) 考査・座学状況評価 30%
- (3) 評価の観点

- ① 知識・技能 対象を捉える視点・観点についての理解度。適切な表現方法を追求し、内面や個性を表現できる。
- ② 思考・判断・表現 造形美や込められた意図等、作品に真摯に向き合い、自他の価値観の違いを念頭により効果的な表現方法を模索できる。
- ③ 主体的に学習に取り組む態度 周囲の言葉は指示ではなく助言と捉え、柔軟に発想し、自主的に取り組む事ができる。

#### 7. 担当より

IT 技術がこれまでも増してめまぐるしい速度で進歩する一方、自己を表現する術が本来多様化すべき時代であるにも関わらず多数が注目する表現、技術に画一化される側面も散見されます。

次世代を担う皆さんは自分の持つ可能性を自覚し、人種、文化、時代を超えた表現方法を学び、様々な創作活動で生じた出来事に関心を持つ事が何よりも重要な時代になりました。多様性、という言葉に込められた重みや楽しさ、努力や歴史に興味を持って美術を楽しんでくれる事を願います。

科目	器楽演奏法	単位	2	対象	3年 普通科 文系B選択
目標	音楽の諸活動をして、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。				
学習内容	(1) 各自でひとつ楽器を選択し、実技を学ぶ。				
学習にむけて	演奏曲及び練習曲を各自で準備して下さい。				
評価の方法	次の(1)～(5)を総合的に判断して評価します。 (1) 観察法：興味・関心・態度・意欲の評価。 意欲的、主体的に授業に取り組んでいるか。 (2) テスト法：ペーパーテストを行います。 (3) 演奏法：個人の演奏に限らず、重唱(奏)やグループによる演奏を評価する。 (4) 課題やレポート提出。 (5) 遅刻、欠課等勤怠状況、日々の授業態度。				
教科書・使用する教材等	(1) 必要に応じた練習曲、演奏曲				
進路との関わり	音楽系大学の受験対策が主な内容になります。				

1. 教科名 芸術 科目名：美術研究
2. 履修学年 3年（文系B選択）
3. 単位数 2単位

#### 4. 目標

芸術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

1. 多様な表現方法への理解を深め、制作意図に応じて選択・実践できる。
2. 表現の意図や工夫、制作背景について学び、自発的に発想、計画、制作を行えるようにする。
3. 主体的に取り組み、永く創作を愛し、様々な美術文化に親しみ、豊かな社会を創造できる。

#### 5. 授業内容及び形態

1. 主に芸術・創作系の進路を目指す。可能な限り少人数とし、個々に応じた専門知識、技術を学べる課題設定と指導を行う。
2. 芸術合同発表会は他学年に準ずる。
3. 基準を満たす課題は公募等へ出品し進学を見据えた実績の蓄積を目標とする。

#### 6. 評価方法

- (1) 実技評価 70%
- (2) 考査・座学状況評価 30%
- (3) 評価の観点

- ④ 知識・技能 対象を捉える視点・観点についての理解度。適切な表現方法を追求し、内面や個性を表現できる。
- ⑤ 思考・判断・表現 造形美や込められた意図等、作品に真摯に向き合い、自他の価値観の違いを念頭により効果的な表現方法を模索できる。
- ⑥ 主体的に学習に取り組む態度 周囲の言葉は指示ではなく助言と捉え、柔軟に発想し、自主的に取り組む事ができる。

#### 7. 担当より

IT技術がこれまでも増してめまぐるしい速度で進歩する一方、自己を表現する術が本来多様化すべき時代であるにも関わらず多数が注目する表現、技術に画一化される側面も散見されます。

次世代を担う皆さんは自分の持つ可能性を自覚し、人種、文化、時代を超えた表現方法を学び、様々な創作活動で生じた出来事に関心を持つ事が何よりも重要な時代になりました。多様性、という言葉に込められた重みや楽しさ、努力や歴史に興味を持って美術を楽しんでくれる事を願います。

1. 教科名 芸術 科目名：美術研究
2. 履修学年 3年（理系選択）
3. 単位数 2単位

#### 4. 目標

芸術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

1. 多様な表現方法への理解を深め、制作意図に応じて選択・実践できる。
2. 表現の意図や工夫、制作背景について学び、自発的に発想、計画、制作を行えるようにする。
3. 主体的に取り組み、永く創作を愛し、様々な美術文化に親しみ、豊かな社会を創造できる。

#### 5. 授業内容及び形態

1. 受講者各々がこれまで培った知識・技術を自覚的に選択し、自主的に課題と計画を設定して創作活動を行う。
2. 芸術合同発表会は他学年に準ずる。
3. 基準を満たす課題は公募等へ出品し進学を見据えた実績の蓄積を目標とする。

#### 6. 評価方法

- (1) 実技評価 70%
- (2) 考査・座学状況評価 30%
- (3) 評価の観点

- ⑦ 知識・技能 対象を捉える視点・観点についての理解度。適切な表現方法を追求し、内面や個性を表現できる。
- ⑧ 思考・判断・表現 造形美や込められた意図等、作品に真摯に向き合い、自他の価値観の違いを念頭により効果的な表現方法を模索できる。
- ⑨ 主体的に学習に取り組む態度 周囲の言葉は指示ではなく助言と捉え、柔軟に発想し、自主的に取り組む事ができる。

#### 7. 担当より

IT 技術がこれまでも増してめまぐるしい速度で進歩する一方、自己を表現する術が本来多様化すべき時代であるにも関わらず多数が注目する表現、技術に画一化される側面も散見されます。

次世代を担う皆さんは自分の持つ可能性を自覚し、人種、文化、時代を超えた表現方法を学び、様々な創作活動で生じた出来事に関心を持つ事が何よりも重要な時代になりました。多様性、という言葉に込められた重みや楽しさ、努力や歴史に興味を持って美術を楽しんでくれる事を願います。